

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その13）

～ 「ミニバスケットボールの今昔 ①」～

2020年5月吉日

広島県バスケットボール協会U12部会

スーパーバイザー 大庭浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、学校再開のめどが立たず、それに伴いミニバスケットボールの練習ができない状況が続いています。

子どもにとっても大人にとっても非常に厳しい状況ではありますが、感染で苦しむ人やその家族、また自らの感染リスクと隣り合わせの中で、強い使命感のもと、最前線で仕事をされている医療従事者の方々がおられる中、試合や大会のことはあまり考えず、私たち一人一人が、感染予防に努めなければなりません。今は、いつでもどこでもだれでも感染する可能性があるという現実をしっかりと受け止めて行動しましょう。

以下の文章は、X JAPAN のYOSHIKIさんが、4月24日（金）放送の「中居正広の金スマスペシャル」で、ロサンゼルスからの緊急メッセージとして発したものです。

「今まで当たり前のように身近にいた人が突如いなくなってしまう。そういった経験をされた方は僕以外にもいると思います。今まで当たり前のようにあった世界が急が変わってしまう。今はそういう時なのかもしれないですね。

ただね、暗闇は暗ければ暗いほど小さな光だって輝いて見える。今まで気付かなかった小さなことが、当たり前のようにあった日常が、実はすごく大切なことだったんだな。自分にとってどれだけ素晴らしい人が周りにいたんだろう、素晴らしいことが周りにあったんだろう。とても考えさせられます。

『神は耐えられない試練を人には与えない』。僕はその言葉をいつも信じて生きてきました。何かあるたびに強くなってきたから、これを乗り越えた時はみなさんもきっと強くなっているんだろうなと思います。

音楽家として微力かもしれないですが、少しでも力になればと、1日でも早く夜明けが来るようにみんな頑張らしましょう。みなさんの健康と安全を心より祈っています。頑張ろうね！」

このメッセージにもあるように、これまで当たり前そばにいた人、当たり前にあった生活が、とても大切なものであることに気付いた人は私だけではないと思います。

私事ですが、もしも今のチームに指導者としてお世話になることがなければ、これほどまでに現在の状況を気にすることはなかったかもしれません。チームのことや子どものことを必要以上に考えることもなく、当たり前のことが大切であることにもそんなに気づかなかったはずです。これも今のチームに誘ってくださった方のおかげであり、改めて縁というものは大切にしないといけないものだと感じました。

仕事を終えた夕方や休日に体育館に向かい、ミニバスケットボールを愛する子どもたちを相手に指導をする。それが生活の一部になっていた者にとって、これまで当たり前に行われていたことができないもどかしさは計り知れません。これは児童の皆さんも保護者の皆様も同じだと思います。

しかし今は、じっと耐えるしかありません。先が見えない、見通しが持てないことほど辛いことはありませんが、今できることを辛抱強く続けてまいりましょう。

さてそんな中で、少しでも楽しく明るい話題はないかと考えました。そこで、ふと思いついたのが以下のことです。

突然ですが、当たり前といえば、今の広島地区で行われるミニバスケットボールの大会の風景も、多くの皆様にとっては当たり前のことでしょう。

しかし、私が初めてミニバスケットボールの仲間に加えていただいた頃(約35年前)は、いろいろな面で今とはずいぶん違うことがありました。そして年月が過ぎるとともに、その当時のことを知る人もずいぶんと少なくなってきました。そこでなんらかの形で記録として残しておきたいと考え、特に何もすることのなかった連休中に昔のことを思い出し、自分なりにまとめてみました。

「過去のことを知って、何になるの？」 確かにそうですね。

でも、過去には過去でたくさんの苦労があり、今こうして楽しくミニバスケットボールができるのは、指導者や選手を問わず、多くの先輩方のおかげであることは間違いありません。

「温故知新」という言葉もあります。今の私たちが、昔のことを知り、先輩方の努力に感謝し、そして今の良き体制をしっかりと継続しつつ、さらに工夫・改善しながら、組織をより良い方向へ導いていくことが、これからの未来を担う子ども達のためになると思います。

保護者の皆様の中には、小学生の時にミニバスケットボールをされていて、「ああ、そうだった。それ、自分も経験した」と思い出される方もいらっしゃるかもしれません。

「ミニバスケットボールの今昔」という、たいそうなサブタイトルをつけましたが、内容は拙いものであることをお許しください。と同時に、一応シリーズでお送りしますので、しばらくの回数、お付き合いください。

また、私が思い出せる範囲でまとめたものですから、当時のことをよく知る方は、どんな情報提供してください。よろしくお願ひします。

さてその記念すべき？ 第1回目は、「コート（試合会場）」と「ボール」についてです。

## 1 コート（試合会場）

今でこそ立派な小学校の体育館やスポーツセンターを利用していますが、昔は、ほとんどの大会で古い小学校の体育館を利用していました。たとえば県大会の決勝でもすべて小学校の体育館でした。後にスポーツセンターを利用することとなりますが、それまでは準決勝や決勝は、当時一番大きかった白島小学校の体育館を利用していました。

また体育館のラインも特殊でした。これはある先輩から聞いた話ですが、「広島市の小学校体育館にスポーツのラインを引く時に、一番はバレーボール、二番目はバドミントン、三番目は・・・」とのことで、バスケットボールのラインはありませんでした。そこで、チームで幅2cm位のいわゆるビニールテープを貼ってラインにしていました。当時も今の幅のラインテープはあったとは思いますが、何かの時にはすぐに剥がせるようにしていたのです。このテープはとても剥がれやすく、何度も何度も補強していました。特にサークルを引くのが難しく、ほとんど円になっていない会場もありました。（笑い）

また、大会で使用できる体育館も限られていました。なぜかと言うと、当時はまだバスケットボールがそんなに盛んではなく、オールコートで使用できるリングがある学校が少なかったからです。主に使用していたのは、白島小、千田小、宇品小、観音小、南観音小、草津小、井口小、己斐上小、船越小あたりです。

さらに言うと、今は多くの会場でベンチとともに反対側に保護者席がありますが、当時の体育館は小さく、TOのテーブルや保護者席の椅子がコートのラインのぎりぎりにありました。また会場によっては、保護者全員が2階から応援する所やベンチの延長上の椅子で応援する所もありました。なんだか異様な光景が目に見えふことでしょう。

私も審判をしていて、何度か保護者の座る椅子につまづいたことがありましたし、また、ファールをされた選手が保護者席に突っ込んで椅子で頭をうつということもありました。本当に今では考えられない場面ですが。

## 2 ボール

当時のボールはゴム製でした。これは、公式試合がゴムボールであったことや、小学校の体育科の授業でゴムボールを使用していたからです。（体育科の授業は今でもそうです）

ゴムボールは約1年で、表面がつるつるになります。ボールがつるつるになると、とてもすべりやすく、パスやシュートが思うようにできません。それで多くのチームにおいて、毎年4月に選手個人が購入し、マイボールとして1年間使用するのが慣例であったと思います。マイボールであるだけに愛着もあり、選手はボールをととても大切にしていました。

またゴムとはいえ、バスケットボールはとても硬かったので、冬の寒い時期でのパス練習の後などは、爪の先から血が出る児童が多かったです。また今より突き指も多かったように思います。これを書くと、当時バスケットボールをしていた保護者の多くは、その時の痛さを思い出されることでしょう。それから比べると、今の選手は幸せですね。